



# 通信

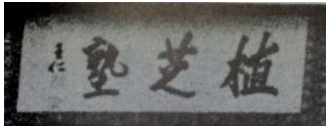


VOL.13

令和2年9月1日

作成：長岡 正宏

皆さん、「神技」ではなく、「心技」を目指そう！



出口王仁三郎筆「植芝塾」



植芝塾脇に立つ開祖  
大正10年頃(38歳前後)



植芝塾があったとされる場所  
後ろの山が本宮山(撮影：長岡)



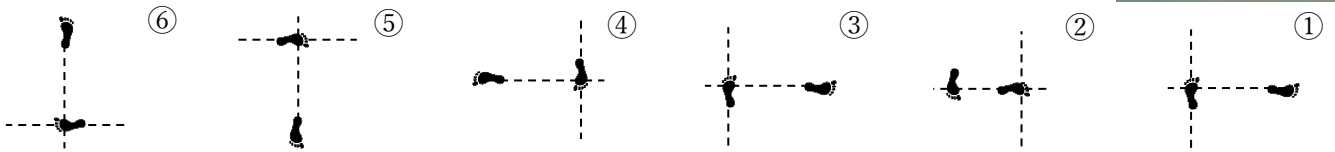
稀有な武道家として評判に  
なる(植芝塾にて)

合気の旅(植芝塾跡を訪ねて)

開祖植芝盛平は父危篤の報を受けて、住んでいた北海道白滝の地を離れて帰郷。しかし、大本教の出口王仁三郎に魅せられて、すぐに一家で京都府綾部に移住、大正9年(1920年)のことである。

最初は大本教の西門外にある二階建て一戸を借りていたが、出口王仁三郎の計らいで本宮山麓に移った。そして、出口王仁三郎から「武を天職と心得よ」と言われ、稽古ができるように秋頃自宅を改装し「植芝塾」を開講した。今年で開講100周年になる。綾部は舞鶴に近いということもあり海軍関係者が多く出入りしていた。その影響もあり、植芝塾開講は武道家として次第に世に知られていく足掛かりとなった。

【自宅で稽古しよう！】今回は木剣を持って四方切りをしよう！※木剣は、頭の真上を通るようにすること。



⑥ 左に回りながら 剣を振り下ろす

⑤ 右足を左に出し 剣を振り下ろす

④ 左に回りながら 剣を振り下ろす

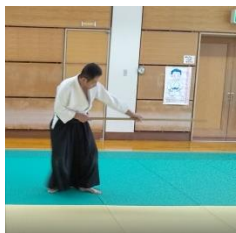
③ 右足を出しながら 剣を振り下ろす

② 右足を引いて 上段に構える

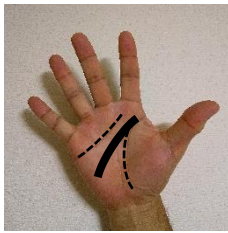
① 右半身中段に 構える

## ～ワンポイントアドバイス～

杖を突く時は手のひらの頭脳線に合わせて杖を持とう！杖での剣構えは前回の剣と同じように生命線に合わせて持つ。空気が通るイメージで軽く握ること。



左右とも頭脳線で！



頭脳線(知能線)

道心探求

人が自分の身体を通じて周りの世界と関わる度合いがどんどん減っている。コロナ禍で今後この傾向が更に顕著になっていくのだろう。機微の分からない人が増えるのではと心配だ。仏教哲学者鈴木大拙氏の『一真實の世界』の中に

我等には「我」といふ硬いものが、いつも心の中に座を占めて居るから、何か向こうから来るものがあると、それを容れることが出来ないのです。どうしてもそれを、

「我」の力で突き返すのです。これを衝突とも矛盾とも申します。これに反して、柔軟心ということになりますと、向こうから来たものがその中に吸ひ取られてしまふ。

これを読んで唸らない合気道家はいないのではないだろうか。

## ～開祖の言葉～

合気とは、敵と戦い、敵を破る術ではない。世界を和合させ、人類を一家たらしめる道である。合気道の極意は、己を宇宙の動きと調和させ、己を宇宙そのものと一致させることにある。

「武産合気」高橋英雄著 より

